

プライバシーの壁

私は42年間も務めていたので友人がたくさいます。女性ばかりの職場で終戦の年が10代の終わりがごととあって、ほとんどが結婚していません。戦争のため結婚相手が少なかったのです。友人はみな同じ境遇なので結婚しなくてもあまり肩身の狭い思いはしませんでした。そしてそれぞれの職場で定年まで勤めて後は自由な独身生活。それぞれマンションなどで一人暮らし。みんなで、かたらって1〜2泊の麻雀や海外旅行、国内の温泉巡りと罰が当たりそうな気ままな生活をしてきました。

そうして20年余り経つと老年が訪れました。足が痛いとか、大きな手術をしたとか、あちこち不調になってきました。

私は遅かったのですが、何人かの友人は早々と老人ホームに入りまします。（それぞれ呼称は違いますが）本人が元気でいいのですが、年賀状

が来なかったというので様子を聞こうとしても、駄目なのです。



個人の情報管理は大事

施設に電話しても「お応えできません」。こちらの電話番号を言っても電話してもらえないように伝えていただけませんか、と頼んでも出来ないというのです。普通はその連絡ぐらいいは出来ると思うのですが、本人が連絡出来ないような状態で、それが言えないからかなと推測するばかりです。親しくしていた20人以上の友人の中で5〜6人もそんな状態で何とも言えない悲しみを覚えます。中には施設を訪ねて行ったこともありますが、教えてもらえず、粘った末、ここにはおられないというのです。勿論移転した先を教えてくださいませんか。

私がこの施設に入るとき、私が連絡出来ないとき、私が連絡出来ないとき

友人から電話があったら取り次いでもらえませんかというなら、出来ないといわれました。ここでは毎日一緒に食卓を囲んで食事をしてる方が、何回か続けて顔を見せられないとき、どうされたのか聞いても教えてもらえません。言い方は穏やかですが、はっきりした事情はわからない返事です。同じ階の人が最近見かけなくなったりときも、転居されたのか、入院されたのか、あるいは亡くなられたのか、それさえわかりません。こんな時のプライバシーっていったい何なんでしょう。誰のためにあるのでしょうか。



あなたは無防備に情報を送受信してないですか？

ほとんど満足している私のホーム暮らしですがこのことだけが納得できないでいます。記・写真・牧戸富美子

西オーストラリアの初旅 その二

絶景とグルメで満足

老人にとつて旅行中、荷物を持つて移動しない計画は魅力だが、こんな大陸となると同じホテルをベースとして、1日のバス走行距離は長くなる。

今回、1日に500〜700kmを走る運転手さんのお蔭で素晴らしい絶景、景観を見ることが出来て、感動した。



ウェーブロック

風雨や砂の浸食で出来た一枚岩、高さ14M、長さ110M

1枚岩がアートのようなダイナミックなウェーブロックとナンバン国立公園のピナクルズ奇岩群である。ともにアボリジニの聖地であっただろうが文明の進化で現状のアボリジニに少し心が痛んだ。パースの街は海に面しているのでシーフードの料理が新鮮で、日本なら結婚式しか口にしないロブスター料理を満喫した。



ストロマイト

35億年前から生息する最古の生物

最も珍しかったのは、セテイス湖畔に35億年前より今も生きているストロマイトという生物である。生物というより黒い火山岩と言った方が想像つく。酸素のない時代に光合成により、地球上に生物らしいものをつくりだした。今も年間0.4mm成長する。

帰国後、コロナウイルス肺炎のニュースが世界を震撼とさせている事を知ったが、1月19日香港経由だったが、今さらながらヒヤツとしている。あの時はすでに発症の心配があっただろうがあの大い香港空港内でマスクをしてる人は見かけなかった。

川が増水して水没しても、水が引くと石垣の土手に変わりなくピンク（他に白、緑）の花を付けている。春から秋まで花期は続き、葉は秋に成ると紅葉して、また美しい。記・写真・上村サト子



紅葉したヒメツルソバ

オーストラリア大陸にはユーカリ類や他の樹木も油脂分が多く、強い風で枝がこすれて、発火しやすく、私達が走った西部でも火事あとがあちこち見かけられた。ともに一日も早い終息ニュースを聞きたいと願う。記・写真・上村サト子

四葉影

原産地はヒマラヤだが日本でも半野生化するほど増えている。暑さと乾燥に強いのでほんの少し土があれば、茎がほふくし、発根して生育する。花壇に植える時は広がり過ぎるので適宜範囲を決めて、切り戻したらよい。